

刊夕日七月一

常磐每日新聞

定価 一部会費一ヶ月五錢 五部五錢 五部五錢
 廣告料 五號十二字 日一行 金五銭 五銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社



本年の「経済界」

阿部 政右衛門

一九三五、六年の危機！
 兩三年前から頻りに言ひはやされ、國民には一種の合言葉にさへなつた一九三五年が遂にやつて来た。
 何となくこわい様な氣もするが亦一面には之れはしつかりやらなければいけないと云ふ氣もする。然し結局は大丈夫の様な氣がする頗る漠然たる不安と名状し難き緊張味とを併せて一種の自信とを感ずるのである。
 換言すれば三五年は樂觀は許さぬが悲觀するにも及ばぬ年の如くである。

明の日の立献

- 【朝】味噌汁―里芋 小付 生姜煮
- 【晝】親子丼 鶏肉 三つ葉
- 【晚】油煮―こんにやく 蓮根 牛蒡 小付―黒芋

海老の天 狹羅は尾を見れば
 新鮮の度が判る、即ち新しいもの程尾の色が冴えて赤いアメリカ物など黒色に近い。

この事はやがて昭和十年の吾が経済界諸現象の動向をも物語つて居りはしまいか。

◆……………◆
 今試みに昭和十年度の吾が経済界を數種の主たる觀

橋藏相が前議會に於て將來公債はふえの心も知れぬと言つたにも抱らず、十年度の傾向としてはインフレに大なる期待をかける譯には行かぬ寧ろデフレ傾向を示めずものではあるまいか。



詩

看護婦

木津 茂太郎

冬子は看護婦だつた。
 都會から病ひを得て田舎の家へ歸つて来た冬子の黒髪は黒々として長かつた。僕はその黒髪ゆゑに彼女を愛した。
 (けれどもそれは戀ではなかつた)

白い手は凶い病ひのため
 に細々としてしまつた。
 僕は看護婦といふ職業の危険なことをしみじみとさつただけだ。

あの日冬子の枕もとで僕
 が僕の悲惨な思ひ出を語つたら……
 冬子の口邊にはかすかな微笑みがあつた―おどけた話に聞えたのだらう。

しかしそれは僕としては
 まじめな話だつた。それから間もなく彼女は死んだ。あのいつもの平凡極まる死

が風のやうに冬子をさらつて行つたのだ。
 僕は何年か以前のある日の冬子の美しく瘦せた手を思ふと非常に何かを恨めしくなるのだ。

木村外科醫院

平町六丁目橋際
 電話三〇九番

歯科口腔外科 レントゲン科

院長 東京齒科 醫學士 原 精一
 東京齒科 醫學士 柏倉 武男

原齒科醫院

平町土橋通り
 電話三一三番

有給外務員數名募集

一、廿五才以上 經驗の有無を不問男女數名
 一、固定給の外旅費支給す
 御希望の方は履歷書持參來談を乞ふ
 (明治十四年創立)
 保險の開祖

明治生命保險株式會社

所長 小 平 野 事務所
 平 野 康 勝 康 仲 町

体温計の検査日です

10日 検新機
 設置 お宅の体温計は？

◎正確な体温計を御使用下さい
 ◎毎月十日の検査日御利用下さい
 ◎計量器 指定販賣人 西村屋藥局
 平・二 電三番

内科 小兒科 花柳病科

藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七

是非！

御融通には御用命下さい
 萬事便利な御相談に應じます

三井質店

平四・電六〇六番



玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番

謹賀新年



平會館

新年お目出度う
 御座います。
 本年も相變らず
 御引立の程を願
 上げます。

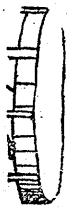
調理部 今成 鏡一
 あもすかそ
 いとみほめ
 子子子子子郎

戀のホームラン

[中]

(ユーモア) 樋口悦也 畫

樋口悦也 畫



二
春の日は空に——。そして三郎君は深く物思ひに沈む。

あれからどうしたものか三郎君は下宿屋の二階で考へては居たが、あつた。彼氏は青春二十六歳の若い身を擁いて惱んでゐるのであつた。

三郎君は人生の春を知つ



た。古風に表現すれば彼は戀煩ひをしてゐるのであつた。何故つて、あの時の球が惡戯して三郎君の病氣の原因を作つたのだ。

の血の燃える二十六歳の三郎君の脳裡へ深く喰ひこんだのだ。
『梨地さん近頃なんだか憂鬱よ……』
と皮肉交りに下宿屋の娘

美代つべが唄ふが三郎君の最近はその通りだつた。

何しろ意中の人が、高峰の花なので三郎君はこの苦しい胸のうちにどうして彼女に打ち明けようか、と日夜その事に煩んでゐるのであつた。

三郎君は第一番に彼女の家の容子をしりたかつた。電話帳には、奥村惣兵衛、會社員と記してあるばかりだつた。

『小父さん野球をしないか……』
と、いつかの少年達の一

群が、彼氏の窓下で怒鳴つた。
『お、やるよ——』

三郎君はまるで、子供が同輩の遊戯の誘ひを受けた時のやうに、喜々と飛び出して行つた。
『小父さんは背が高いから三壘をやつておくれよ』
『俺にピッチをやらせろよ……』

『だつて僕がピッチをやるだもの駄目だよ。——小父さんは三壘が好いよ』
例の紺緋の少年がいつた
『一べんだけ——』

夏井川改修

本年は鎌田から

上流に延長する

工程三分の一を既に完成

総工費百九十七萬圓で昭和七年十月以來着工された六年繼續事業の夏井川改修工事は昨年十二月迄に七十二萬圓を費して全工程の三分の一を完成せしめたが其の労働者使用延人員は實に四十二萬二千五百名に及び賃金の支拂額は二十七萬三千七百七十九圓五十九銭に達し一人平均六十一錢強に當つて居り労働者は何れも關係町村の失業者のみを採用したので農村經濟を潤した事は非常なものである。尙本年は現在着工中の平町鎌田附近より平窪赤井村迄大堤防の延長工事が繼續される豫定である。

御令旨に

青訓生宣誓

平青年訓練所は既報の如く去る元旦の佳日をトし午前九時から第一小學校講堂に於て昨年六月郡山市で行れた縣下青年訓練所大會の際當時の第二師團長の宮下からせられた東久邇宮殿下より拜授した御令旨並に御親閱參加記念綬拜戴式を舉行左の如き宣誓を生徒代表四年生佐藤政雄君が朗讀した。他多數の來賓參列あり頗る盛會であつたと

宣 誓

第二師團長宮殿下御親閱に參列するの光榮に浴し

三郎君が歎願するやうに『やアだ』

少年は球を抱へ身體を振た『十錢やるから小父さんにピッチをやらせておくれよ』
『ほんとにくれる？』
『やるよ』
『今くれなき、やアだ』
遂々三郎君は墓口を取り出した。
『小父さん僕にもおくれよ……』
『僕も』
ピッチを一つ役買収するのに、大枚五十錢を費つた

又御令旨を賜り感激に堪へず我等は益々身體の鍛錬精神の修養に努め以て善良なる國民たることを期す今御令旨並に御親閱參加記念綬拜戴式を舉ぐるにあたり茲に之を宣誓す

市制調査

委員初顔合

平町市制執行調査委員會は來る十一月午後二時から町會議事堂に於て開き委員の初顔合せがあると

錦校前の

人絹道路

二間に擴張

錦村小學校前村道は目下建築を急いで居る昭和和人工場への近道なのでトラック馬車の往來甚だしく路面が非常に破損したので村當局では此際道路の擴張工事を進行ふ事となり舊臘廿七日より工費千圓を投じて工事中

海軍志願兵検査

平町は二月十六日に

海軍の非常時を護る本郡下に於ける今年度海軍志願兵徵募検査は來る二月十六日より三日間平町第三小學校講堂に於て施行する事に決定されたが各町村の日割左の如し
(十六日) 泉 渡邊 植田 山田 錦 勿奈 上遠野 入遠野 川部 田人組合 平 飯野 夏井 高久 豊間 江名 鹿島 小名 濱 玉川 (十七日) 磐崎 湯本 内郷 好間 赤井 永戸組合 三坂組合 (十八日) その他各村

平町區長會議

平町區長會議は來る十一月八日午前八時より町役場會議室に開かれる

平町 人事

△田町當時好間村字小館小 林義男氏(二五)安達郡字 町五九秋元テヨ(二二) 回 死 亡

土地測量

平稅務署に

講習會開催

大日本土地測量協會主催の土地測量法講習會は來る十

湯本城の本

官軍方の一勢力 城跡を想定し 諸根氏の考證

湯本町字三箇地内山林に今から七八百年前立派な城郭が築かれ奥州に於ける官軍の回復を畫つた史實が今回郷土史に通饒し幾多の著述を有する諸根一氏の實地考證の結果明らかとなり同町にては史實上此の誇るべき城跡を町の新名所として全国的に紹介すべく努めて居る——同氏の考證に依れば湯本城の築かれたのは現在の湯本町字三箇地内山林三百四番通稱

現在、泉村大畑山の岩で佐竹旅と戦つた際遂に敗れ海路から吉野朝廷に歸還したらしいはの間七八年湯本城を本據として凶徒の中に孤軍奮闘せる血涙の跡であると因に經泰は當時阪東奥羽勤王軍武將中では有數義烈の士であつた事を諸根氏が其著「結城宗廣勤王論」中に力説して居る

添え遂げれぬ

身は果敢なし 闇に咲く身を救はれて 壽ぐ初春を他所に服毒

錦村字江栗齊藤リン娘コウ(一)假名は去る五日午後八時頃自宅二階で猫イラズを多量に嚙下自殺したが同人は三年前茨城縣大津町料理店松屋方で酌婦を働いて居た際同町山口政治に身請されたが同人に妻子があつて添え遂げれぬ處から正月で

高久村字下高久松本久長(三)及び同人妻モキ(三)の兩名は舊臘中病床に在る實父長治郎を置き去りしたまゝ家出し行方を晦した旨にて平署に捜索方を實父より願出た

酒抜き總會

真面目な長橋青年 長橋町青年分團は昨年大改革を遂げて新春第一回の總會を元日午後一時より松屋に開き非常時に鑑み一切酒抜きを旨とし君ケ代を合唱、令旨を捧讀、川角區長、川崎顧問の祝辭あり今宮賛助員の音頭にて萬歳を三唱した、因に役員改選の結果左記の如く決定した

今晩の部 後六、〇〇 子供の時間 お話「西洋のお正月」福島けい子 後六、二五 農村副業講座 副業課長 西村彰一 後七、三〇 講演「新年と勤王」植頭憲太郎 菅野淺雄 大林俊吉 關内庄平 武田安右衛門 鈴木徳義

恋の渡船

待合中取押ふ 内郷村字宮高橋喜代治(三)同村熊田ハルノ(三)の兩名は戀仲を両親が許さぬので北海道へ戀の逃避行を極め込まんとして五日午後九時頃連らく船を待合す為め青森驛前をウロウロして居たのを青森署に取押へられた旨平署に通報があつた

大型國旗寄附 江名町字永崎材木商酒井直惠さんは昨六日同字永崎分教場

鐘紡誘致

運動打合せ 平町鐘紡工場誘致委員會を來る八日午前十時より役場會議室に開き運動方法を打合せ

平署の寒稽古 平警署の柔剣道寒稽古は明八日より十日間同署道場に毎日午後三時より二時間猛烈

駐在所の厄介者逮捕

豊間村字薄磯生れ志賀三郎(二)假名は去る五日夜隣家の菊地雜貨店に忍入り金側腕時計と現金二圓を窃取し昨六日夜平町南町地内を徘徊中平署員に取押へられたが同人は是れ迄も數回駐在所に厄介になつた事がある

小島夜警開始 内郷村小島の夜警は昨夜より開始

新年の撞球會

田町の平撞球場にては來る十三日正午より新年撞球大會を開き一等から十等迄賞品を贈ると

共濟病院更迭 平町磐城共濟病院外科部長坂本眞一郎氏は今回仙臺東北帝大醫院に入り後任として同く仙臺東北帝大關口外科の醫學士大町久藏氏が着任した

商友會の新年宴會

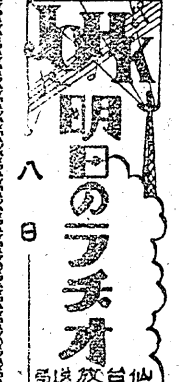
平商友會の恒例新年宴會は明八日午後六時より田町末廣亭に於て催されるが出席希望會員は本社内坂本又は會場末廣亭宛に至急申込まれたいと會費一圓五十錢

正月酒に泥酔し 海中に轉落溺死 小名濱港内に停船中の漁船榮丸乗組員青森縣三戸郡館村生れ漁夫松田權之助(三)は元旦朝に船内で正月酒に泥酔し海中に轉落行方不明となつたが去る六日朝溺死體を發見

裁判所たより

植田町大字植田字本町三九土木請負業肥田敏太郎(三)は昨年十一月十日頃

お伽「歌劇」ニューチユウ小僧「JOK」唱歌隊 後六、二五 農村副業講座 田中教一 後七、三〇 講演「本年の外交展望」芳澤謙吉 後八、〇〇 ラヂオスケッチ 正月泉天嶺他 後八、四〇 管絃樂 日本放送交響樂團 後九、一〇 聲帶模寫 古川綠波



明日の天気 今夜も明日も北西の風晴曇半す

明日の部 日の吉凶「理學博士 新城新藏 後八、〇〇 寄席の夕 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

動入等の勇士 賊を働いて 巡查を半殺し 舊臘廿八日夜半二時頃平窪村長谷川駐在巡查が村内密行警戒中同村新屋敷地内に木炭二俵を奪つた怪漢を暗闇中に發見誰何したる處突然棍棒を揮つて同巡查を真ッ向から滅茶々々毆打し同巡查が其處に轉倒せる隙を見て脱兎の如く逃走せ

新年の撞球會 田町の平撞球場にては來る十三日正午より新年撞球大會を開き一等から十等迄賞品を贈ると

共濟病院更迭 平町磐城共濟病院外科部長坂本眞一郎氏は今回仙臺東北帝大醫院に入り後任として同く仙臺東北帝大關口外科の醫學士大町久藏氏が着任した

商友會の新年宴會 平商友會の恒例新年宴會は明八日午後六時より田町末廣亭に於て催されるが出席希望會員は本社内坂本又は會場末廣亭宛に至急申込まれたいと會費一圓五十錢

正月酒に泥酔し 海中に轉落溺死 小名濱港内に停船中の漁船榮丸乗組員青森縣三戸郡館村生れ漁夫松田權之助(三)は元旦朝に船内で正月酒に泥酔し海中に轉落行方不明となつたが去る六日朝溺死體を發見

裁判所たより 植田町大字植田字本町三九土木請負業肥田敏太郎(三)は昨年十一月十日頃



明治太平記

(無敵編成)
上巻及上巻

(作) 寺島証史
(畫) 野口 漣

第二十一回

建白書(三)

大志賀の言葉に横山は無言のまゝうなづいてみせた。「では、その建白を、拙者いや僕が預らう」

「け、建白書は、すでに」

「なに、すでに政府當路の手に渡したといはれるのか……」



「いや、せ、せんごく集議院、門にその、建白書を、た、竹にはさんでさしこんじまゐつた。もはや」

「こりやしつかりせい。集議院の門に建白書をさし込んでしまつたので、もはやそれでわか任務終りとして、切腹なしたのか」

「いや、ま、まさにその反對、こ、これもまた血肉をもつて彩る建白です。大志賀氏で、ではよろしくたのむ、建白書を政府當路の手に渡るやうにご御努力た、たのみます……」

「横山、安心せい。建白の意義を、立派に通して進ぜる」

「あ、ありがたう」

そのまゝ横山は、ガツクりなつてしまつた。

大志賀は、その肩を抱き締めて、暫く暗然としてを

つたが、傍らに茫然と突立つてをる。改良の門番をかへりみた。

「おぬし、これより、すぐに彈正臺へ注進してくれ」

「わいは？」

「おれは、集議院へ駆けつ

けて建白書を手に入れ、政府大官へ渡してやらう」

「さうかい。それがよい。硬直正廉のこの男の爲にその勞をとつてやつてくれいではおれは、ちよいと彈正臺まで住つて来よう」

門番の老爺は、そのまゝいつさんに駆け出してしまつた。大志賀は、路傍に立

つて、横山の無残な切腹を望見してをる、二三の野次馬たちに向つて、

「こりや、町人いや諸君、これへ參つてこの正廉の士の看護してをつてくれい」

野次馬たちは怖氣ついで尻込みした。

「こりや、參れといつたらこれへ參らぬか、おのれたちも、日本帝國國民一人だらう、その自覺があつたら憂國の志士横山正太郎君の最後を見とどけてやつてくれい」

その大志賀の火のやうな

熱烈な一言に感動したものが、野次馬たちはおもはずこちらへ足を向けた。

「いまに、彈正臺の役人たちの參るまでこれに居つてくれ、よいか、おれは集議院へ參る」

大志賀は後事を野次馬たちに托して、そのまゝ駆け出した。

公議所改め集議院は、去年十二月に閉院したまゝになつてをる。

これは、各府縣藩の正權大參事の中から議員を選び年齢は二十五歳以上任期は四ヶ年に限り、二年毎にその半數を改選するといふやうな規定で設けた立憲政治の母胎のやうなものだつたところが、實際は常に理想に背馳する各府縣藩の山の芋のやうな正憲大參事が集議院へあつまつてきてわい、小田原評定で政治を行はうとするのだが、まだるこくて馬鹿馬鹿しくなつて、政府當路の大官たちははやくも厭氣がさした。

科内

川井内科診所

川井安子

平町(電話二四三番)

市原醫院

平町 田町
電話一四四番

お醤油は……ヤマフル

醤油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品

金山崎合名會社

鹽屋
福島縣平町(電話營業部一〇 造工場七)
明治生命磐城代理店 山崎 與三郎

貸切の御用命は

ぜひ・三井自動車部へ!!!

電話六八五番

◎乗合は好間、合戸、澤渡方面行

かまぼこ製造

お徳屋

平町一丁目
お惣菜用
さつま揚
吉原揚
電話一四一番

磐城共濟病院

(福島縣平町) 電話六四二番

小兒科	婦人科	皮膚泌尿器科	花柳病科	X光療科	衛生試驗局
内科	外科	耳鼻咽喉科	皮膚科	外科	藥劑科
小兒科	婦人科	皮膚科	皮膚科	外科	藥劑科
院長 石山謙二	部長 五平賀一忠	部長 坂本眞一	部長 前澤正	部長 石山謙二	部長 高石山
部長 石山謙二	部長 五平賀一忠	部長 坂本眞一	部長 前澤正	部長 石山謙二	部長 高石山
部長 石山謙二	部長 五平賀一忠	部長 坂本眞一	部長 前澤正	部長 石山謙二	部長 高石山

◎毎日午前八時ヨリ午後十時迄診療
◎夜間診療開始(毎夜午後十時マデ)
◎病室完備 入院隨意

外科

門 專 光 X
科 線

上田外科醫院

平町南町
電話一九二番